

乳幼児の健康管理と保健所機能との関連に関する研究

窪 田 英 夫 (蒲田保健所)
清 水 寛 (実践女子大学)
岡 愛 子 (東久留米保健所)
石 井 桂 子 (")
笹 井 安 佐 子 (三鷹保健所)
藤 本 政 子 (小石川保健所)
中 神 田 鶴 (渋谷区保健所)
吉 村 伸 子 (")
松 崎 奈々子 (目黒保健所)
羽 生 田 護 (牛込保健所)

研究の概要

乳幼児の健康管理を包括的に行なってゆくために、保健所がどんな役割を果たすことがのぞましいか、新しい行政需要をふまえながら、その機能を検討したいと考えた。本年は研究の第一段階として次の4つの点について調査を行なった。来年度以降更に調査を深めながら検討をすすめたい。

1) 脳性まひ児の早期療育に当って、地域医療機関並びに保健所の果たしている役割について

2) 乳児の他殺事件における保健的要因のかかわりあいについて

3) 政令市保健所としての東京都特別区保健所の1才6カ月健診の実施経験について

4) 東京都下市町村における母子保健事業の実施状況と保健所との関連について

以下研究結果の概略を報告する。

研究結果

1) 脳性まひ児の早期療育に当って、地域医療機関並びに保健所の果たしている役割について

脳性まひ児の早期療育の必要性は近年強調されてきている。早期療育のためには専門医、訓練士などのいる専門施設に出来るだけ早い時期に送達されていることが必要といえよう。

今回の調査は、太田区に所在する肢体不自由児通園施設である都立北療育園城南分園で外来及び通園治療を受けている脳性まひとその近縁疾患児について、当施設へ紹介されるまでの受療機関の経路、診断及び紹介の時期等について調べた。

(1) 調査内容

昭和47年1月から51年9月までの間に北療育園城南分園に初診で来診し、以後外来又は通園治療を受けた脳性まひ児及び近縁疾患児169名につき、診断の時期、診療機関、城南分園受診の時期、受診までの経由機関数、紹介機関などについてカルテをもとに調べた。更に現在通園中の児童38名について、同様の問題及び保健所との関係等についてアンケート調査を行った。

(2) 調査成績

① 調査児の居住地

太田区81名(47.9%)、品川区33名(19.5%)、世田谷区13名(7.7%)、目黒区13名(7.7%)、その他の地区29名(17.2%)

② 対象児の病名

脳性まひ及びその疑い135名、運動発達遅滞22名、小頭症8名、水頭症6名。

③ 診断を受けた時期と当園初診の時期

表1に示すように、診断を受けた時期は、1才未満が約50%、1才~2才が約25%、残りが2才以降で3才以降とおそい者が約10%にみられる。一方、当園初診の時期は、1才未満が約25%、2才以降約50%と診断の時期に較べて、年齢が後にずれている。しかし、初診年齢は昭和37年及び、44年の北療育園のものくらべると、可成り早くなってきていることがわかった。(図1参照)

④ 診断から当園へ紹介されるまでの期間

年齢区分をはずして、診断を受けてから当園へ

紹介されるまでの期間を分析すると表2の通りである。約75%が1年未満であるが3年以上も経ているものが7.1%に見られた。

⑤ 診断機関から当園までの経由機関数

表3に示すように直接紹介が1/3、1ヶ所を経ているものが1/3、残りの1/3が多く機関を経由してきている。この理由としては、親の不安から病院を巡回することが多いと考えられるが、医療機関における治療及至は施設紹介が親の期待に十分対応していない可能性もあるのではないかと考えられる。

⑥ 各医療機関の初診、診断、紹介機能の分析

表4は開業医・保健所、大学病院、病院、医療機関などで、患児が初診、診断、当園への紹介などの措置をどの位受けたかを示したものである。開業医は初診機関としてはある程度の役割を果たしているが、診断、紹介機関としての機能は極めて低い。また、保健所は初診診断機関としての機能は低い紹介機関としての機能は高く、大学病院、病院は初診、診断機関としての役割は高いが紹介機関としては診断例数の約半数を紹介しているに過ぎない。療育機関とは、当園を含めた肢体不自由児関係施設で、こうした施設で診断を受けているものが約1/3にみられている。

⑦ 脳性まひ児と保健所サービスとのかかわり

表4では保健所から紹介する例が可成り多いことがわかったので、どんな機会に患児が把握され紹介されるかをみるために、新生児訪問指導、3～4ヶ月児健診、3才児健診、その他の訪問指導医療援護など、保健所で行っている各種の母子保健サービスと患児との関係を現在通園治療中の38名の児についてアンケートで調べた。その結果は表5の通りであり、こうした脳性まひ児も各サービスで保健所と関係がもたれているが特に早期発見上重要な3～4ヶ月児健診についてみると、37名のうち3.0名が受診しているにもかかわらず、そのうち5名のみが脳性まひとしての指導を受けているに過ぎない。一方、他の機会に保健婦の訪問指導などによって指導した例が8名あり、それらはすべて肢体不自由児施設に紹介されている。

従って全期間を通じて対象となる35名のうち、約50%に脳性まひ児としての指導が行なわれており、35%が施設に紹介されていることになる。

(3) 調査成績のまとめ

以上の成績を要約すると、脳性まひ児の専門施設での初診の時期は年次的に早められているが、1才未満児の超早期療育という視点からは、診断の時期も施設への受診もまだ可成りおこなわれている例が多い。そうした原因として、診断、療育について専門施設の活用が各医療機関段階で適切とはいえず、特にプライマリーケアを受持つ地域の開業医の脳性まひ児に果している役割が極めて低いことが指摘される。また、保健所としては、ある程度の指導紹介機能は果しているものの、脳性まひ児と接触しながら対象把握が適確に行われていない面があり、地域の脳性まひ児に早期に適切な療育を行うためには各医療機関の機能分担を、地域医療的視点から再検討することが必要と考えられた。

(この調査には北療育園高橋純園長、東大学生吉川、平林、矢野、藤山君のご協力をいただいた)

2) 乳児の他殺事件における保健的要因のかかわり

新生児の遺棄致死、乳児の他殺、母子心中などがジャーナリズムで報道されることが多いが、こうした中で乳児他殺、母子心中の理由として育児ノイローゼとして扱われている場合が多い。こうした育児ノイローゼとされるものに、保健指導的な立場からアプローチすることが可能か否か、その基礎資料をうる目的から、東京都監察医務院で扱った乳児他殺例を統計的に検討した。

調査方法：(1)監察医務院の年報から年次推移、年令分布をとった。(2)昭和51年、50年、49年、48年、44年、43年、42年の7年間の検案調書の記述から検討を行なった

結果の概略

(1) 小児期の他殺が最近特に増加している傾向はみられなかった。

(2) 年令的には胎児、新生児の遺棄致死をふくめると、0才60.4%、1～4才24.3%、5～9才11.6%、10～14才3.6%であった(過去10

年)

(3) 7年間、231例の検案調書の分析結果

①乳児他殺の手段分類

表6に示す結果であった。

②母子心中の関係要因(33例)

表7に示す如くであった。母親側の要因では、精神異常として治療中又は治療歴のあったものが6例と多く、以下産後の日だちが悪い、家庭の事情などである。児の側の原因としてあげられているものは表の通りで、未熟児、発育がわるい、斜頸、夜泣き、兎唇など、母親に対する保健指導の徹底で、母親がそれ程思いつめる必要のないものも可成り含まれていた。

③その他の他殺の関係要因(26例)

表8に示す通り、母子心中と同様のことがいえる。

④事件発生時の児の月令分布

表9に示す通りで、全体として5ヶ月頃までの乳児前半期に多く、約2/3におこっていた。

まとめ

検案調書の記載も必ずしも十分ではないが、それから読みとれた要因は上記の通りある。こうした事件の発生を未然に防ぐ上で、妊娠中、新生児期、乳児期にわたっての、母親及び家族への保健指導の重要性が改めて痛感された。

(この調査には東京都監査医務院越永重四郎院長、上野正彦部長のご協力をいただいた。)

3) 政令市保健所としての東京都特別区保健所の1才6カ月児健診の実施経験について

文京区小石川保健所、目黒区目黒保健所の2保健所において、実施した1才6カ月児健診から、受診率、アンケートのチェック率、アンケートと疾病異常との関連、新発見の所見、歯科健診結果

などについて、小石川保健所においては7月～12月の実施成績の概略を報告する。

実施成績

(1) 受診率、平均63.2～70.8%(表10参照)

(2) アンケートチェックと疾病異常との関連(表11参照)

(3) 新発見の疾病異常表(3)

(4) 歯科健診成績(表12参照)

う蝕者率(C_{F-3}) 平均6.0%

う蝕歯率(C_{I-3}) 平均1.4%

4) 東京都市町村における母子保健事業の実施状況と保健所の関連について

東京都下における母子保健事業については、保健所機能が比較的整備されていた関係から、保健所独自の実施に重点がおかれ、市町村との連けいは密接であるとはいえない状況であった。新たに1才6ヶ月児健診が市町村で実施されることになり、東京都市町村における実施方法と保健所との関連性の問題を検討するに当たり、先づ第一段階として現状における三多摩地区市町村(島しょを除く)の母子保健事業の実施状況、スタッフ数などを調査したので報告する。

調査結果

三多摩地区市町村数は26市9町1村で人口は299万2,402人、出生数は5万4,443人(昭和50年)である。

(1) 母子保健事業の内容と実施方法(表14参照)

(2) 保健指導担当者数と保健所との連けい

・市町村保健婦数58名、看護婦2名、保健所保健婦数174名。

・合同研究会は16保健所中12所でもれた36市町村中16市町村が出席する形になっている。

表1. 診断の時期と当園初診の時期の年齢分布

年月令	6 ヵ月 以下	7 ～ 12 ヵ月	13 ～ 18 ヵ月	19 ～ 24 ヵ月	22 才 ～ 26 ヵ月	27 才 ～ 33 ヵ月	3 ～ 4 才	4 ～ 6 才	6 才 以上
診断の時期	27.8	23.1	14.2	10.6	6.5	6.5	10.1		%
当園初診時期	10.1	13.0	12.4	15.4	13.6	5.9	14.8	10.7	4.1 %

(例数169)

表2. 診断から施設へ
紹介されるまでの期間

期 間	例 数	%
6ヵ月未満	102	60.3
6～11ヵ月	22	13.0
1年～1年5ヵ月	12	7.1
1年6ヵ月～2年	7	4.1
2年～3年	14	8.3
3年以上	12	7.1
全 体	169	100.0

表3. 診断機関から
施設までの経由機関数

経由機関数	例 数	%
直 接	60	35.5
1	62	36.6
2	28	16.7
3～4	18	10.7
5	1	0.6
全 体	169	100.0

表4. 各機関の初診・診断・紹介機能の分析

	初診機関	診断機関	当園への紹介機関	診断→療育(平均値)
開業医	29人(17.2%)	6人(3.6%)	2人(1.2%)	21.0ヵ月
保健所	19(11.3)	10(5.9)	38(22.5)	8.8
大学病院	36(21.3)	31(18.3)	12(7.2)	11.7
病院	76(45.0)	57(33.7)	26(15.4)	15.1
療育施設	8(4.8)	61(36.2)	36(21.3)	
その他	1(0.6)	4(2.4)	55(33.5)	

表5. 脳性まひ児と保健所サービスとのかかわりあい

		新生児訪問	3～4ヵ月児健診	3才児健診	その他の訪問指導	医療援護	備考
受診状況	全例数	38	37	32			その他の訪問指導の時期 5ヵ月 7ヵ月 10ヵ月 1才6ヵ月 1才11ヵ月 1才11ヵ月 2才 2才5ヵ月
	未受診	18	7	22			
	受診	20	30	10	8	1	
指導状況	指導なし	相談しない 14	25	1			17/35(49%) 12/35(34%)
	指導あり	相談した 6	5	9			
	施設紹介		1	3	8		

表6. 乳児他殺の手段別分類

	母子心中	他殺
胎児及び新生児の遺棄致死 172例(74.5%)	33例 (14.3%)	26例 (11.2%)

母子心中の関係要因

表7. としてよみとれた状況(33例)

母親側	13	児の側	12	不詳	8
産後の日だちが悪い	4	ダウン症	2		
精神異常	6	脳障害の疑い	1		
(治療中又は治療歴)		未熟児・			
家庭の事情	2	発育わるい	2		
(入籍・夫婦げんか)		斜頸	2		
育てるのがいやで	1	失明・難聴	1		
		夜泣き	1		
		ウエルナー症候群	1		
		兔唇	2		

表8. その他の他殺の

関係要因としてよみとれた状況(26例)

親側			21	児の側		5
父	母	祖母	心中			
5	15	1	1			
覚醒剤中毒	精神異常	5	心中	1	フォニメリー	1
1	家庭事情	2			兔唇	1
	愛人のため	2			夜泣き	1
心中	精薄	1			よく泣くため	1
2	発作的	2			ミルクの	
飲酒	不詳	3			のみがわるい	1
1						
発作的						
1						

表9. 母子心中とその他の他殺の児の月令分布(59例)

		1カ月未満	1カ月	2カ月	3カ月	4	5	6	7	8カ月以降
例数		6	3	8	9	7	7	4	4	11
他殺・心中の別	他殺	6	2	3	3	0	3	1	1	7
	心中	0	1	5	6	7	4	3	3	4
児の側要因		2	2	3	4	2	2	0	1	1

表10. 1歳6か月児健診実施状況

実施月	計	通知数	受診数	受診率 %	有所見 (新 発 見)					
					計	有所見率%	内 訳			
							先天異常	慢性疾患	一過性疾患	その他
52. 7	701	496	70.8	166(137)	33.5	3(0)	49(23)	16 (16)	98(98)	
52. 8	126	84	66.6	39 (29)	46.4	0(0)	13 (3)	5 (5)	21(21)	
52. 9	102	57	55.9	29 (24)	50.9	3(0)	4 (2)	2 (2)	20(20)	
52.10	112	93	83.0	22 (19)	23.7	0(0)	6 (3)	0 (0)	16(16)	
52.11	112	82	73.2	25 (23)	30.5	0(0)	5 (3)	3 (3)	17(17)	
52.12	132	85	64.4	27 (23)	31.8	0(0)	10 (6)	3 (3)	14(14)	
計	115	95	82.6	24 (19)	25.3	0(0)	11 (6)	3 (3)	10(10)	
目黒保健所										
計	261	165	63.2	56 (52)	33.9	2(1)	28(25)	21 (21)	5 (5)	
52.11	155	102	65.8	30 (26)	29.4	2(1)	14(11)	14 (14)	—	
52.12	106	63	59.4	26 (26)	41.3	—	14(14)	7 (7)	5 (5)	

表12. 1歳6か月健診時新発見の疾別異常とアンケート一次チェックとの関連

小石川保健所 52.7~52.12

アンケート チェック	総数	循環器	呼吸器	四肢	眼	リン節	皮膚	発育	発達	その他
計	39	7	4	1	4	1	16	1	-	5
あり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	39	7	4	1	4	1	16	1	-	5

目黒保健所 52.11~52.12

計	47	-	8	1	2	9	17	7	3	-
あり	7	-	2	1	1	-	-	-	3	-
なし	40	-	6	-	1	9	17	7	-	-

表13. 1歳6か月児歯科健診成績 小石川保健所 52.11~52.12 目黒 52.4~53.2

保健所	対象数	受診者数	う蝕無	う蝕有	程度別う蝕者数				う蝕者率%		
					C ₀	C ₁	C ₂	C ₃	C ₀	C ₁₋₃	計
計	1,738	1,290	1,002	228	211	52	21	4	16.4	6.0	22.3
小石川	180	138	130	8	6	2	-	-	4.3	1.4	5.8
目黒	1,558	1,152	872	280	205	50	21	4	17.8	6.5	24.3

保健所	萌出歯数	う蝕歯数	程度別う蝕歯数				う蝕歯率%			1人当り う蝕歯数
			C ₀	C ₁	C ₂	C ₃	C ₀	C ₁₋₃	計	
計	19,034	1,035	761	180	72	12	4.0	1.4	5.4	3.6
小石川	1,950	25	22	3	-	-	1.1	0.2	1.3	3.1
目黒	17,084	1,010	739	177	72	12	4.3	1.5	5.9	3.6

表14. 東京都下市町村で実施している母子保健事業の内容と実施方法

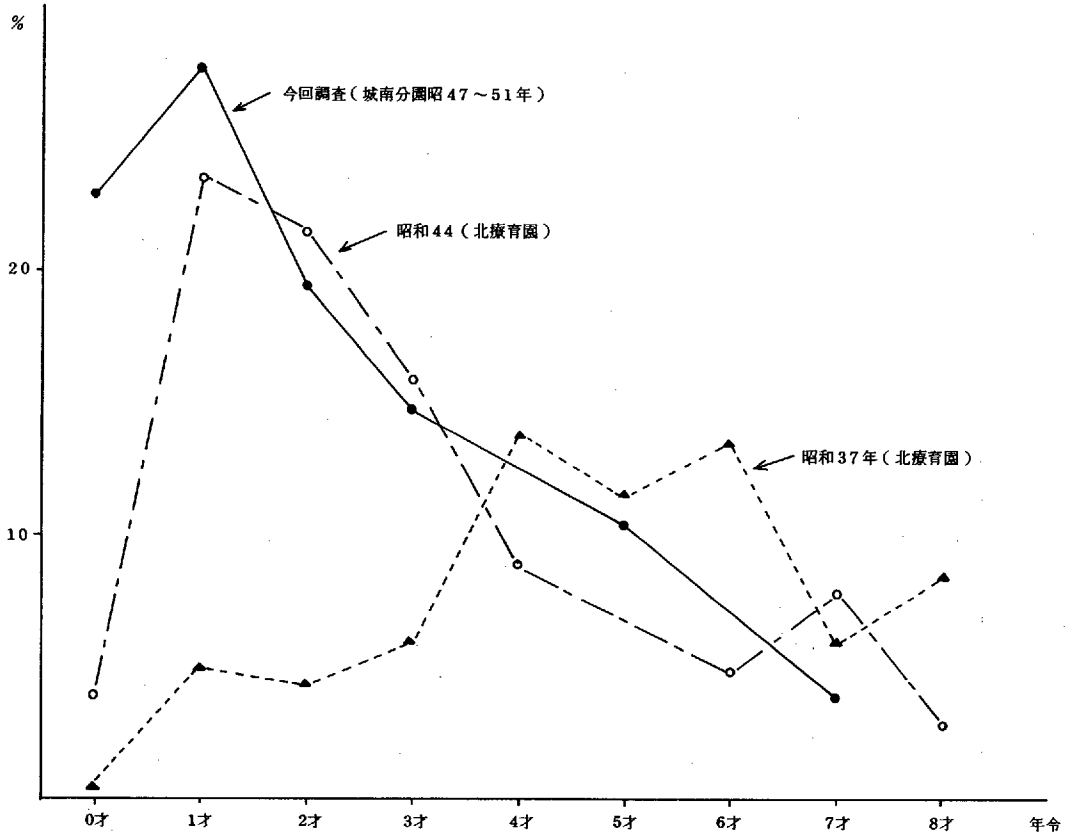
	実施している市の数と名称	方 法				保 健 所 への協力
		委託	やとい上げ	市職員	保健所援助	
健 診	6 { 小金井・武さしの 日野・保谷・稲城・町田	2	4		1	奥多摩町
育児相談	14 { 国分寺・三鷹・青梅・ 府中・調布・八王子 日野・多摩・田無・清瀬 東村山・東大和・ 東久留米・羽村町	1	9	2	4	
母性相談	4 { 東久留米・東村山・小平 東大和		2	1	2	
母親学級	7 { 国分寺・立川・青梅・多 摩・八王子・調布・羽村町		7		1	青梅 奥多摩町
育児学級	3 { 立川・調布・東久留米		3		1	
離乳食 講習会	6 { 国分寺・三鷹・東村山 多摩・東久留米・羽村町		5		1	
その他の 衛生教育	1 { (国分寺)		1			
家族計画	8 { 三鷹・府中・調布・小平 東村山・東大和・八王子 羽村	1	6	1		
訪問指導	5 { 日野・保谷・東大和 小平・三鷹	2	1	1	2	稲城・ 青梅
歯科健診	7 { 国立・狛江・八王子・小平 保谷・東久留米・町田	6	1			
歯科相談	3 { 八王子・東大和・羽村		2	1		
歯科教室	5 { 八王子・日野・多摩 東久留米・町田	2	3			
赤ちゃん コンテスト	3 { 青梅・福生・清瀬			2	1	

表 11.1. 1歳6か月児におけるアンケートチャックと疾病異常との関連

アンケート	№	一次 チェック	二次 チェック	診察	診察	結 果
よく歩きますか	01	6	4	3	下腿が細い	
よく食べますか	02	95	34	12	偏食, 菓子類のみ, やせ	
両足でとび上りますか	03	257	9	6	先股脱治療後	
鉛筆をもってなぐり書きますか	04	8	4	0	鉛筆を持たせても持たない	
自分でスプーンをつかって食べられますか	05	58	7	0	匙を持たせても持たない	
相手になってやるとよろこびますか	06	0	0	0		
命令を二つ実行できますか	07	18	2	1	言葉を理解しない	
例…(1)新聞をもって来て(2)椅子の上におきなさい						
物の名 例・眼・口・ボール等)をはっきり一つ以上いえますか	08	94	35	10	言葉をはっきりしない	
絵本を見て質問した時, そのものを指しますか	09	72	7	0	言葉の理解がない, 言葉をはっきりしない	
おしっこ, うんちのしつげをはじめていますか	10	91	90	0		
(それはうまくできていますか)	10	273		0		
戸外で遊ばせていますか	11	9	5	0	遊びにつれて出ない	
今まで離乳をうけましたか	12	36	5	0	保健所ではうけていない	
眼や聴力で気になる事はありますか	13	19	8	9		
今までに大きい病気, 手術, けががありましたか	14	40	0	0	胸門狭窄OP, 先股脱, 麻疹後肺炎, 顔面麻痺, 骨髄炎, 腸重積OP等	
次の様な傾向がありますか	15					
感冒をひきやすい		96	0	6	気管支炎, 咽頭炎	
発熱しやすい		25	0	2	気管支炎, 咽頭炎	
下痢しやすい		31	0	1	Kaup 13.2	
湿疹しやすい		106	0	16	アトピー,	喘息性気管支炎
その他心配な事があれば書いてください。	16	49	11	9	右側ヘルニア, 斜視, 扁平足, ひきつけ, 大泉門開大等	
該当番号チャックなし		23	7	24	心雑音, 柑皮症, 偏食, 言語ちたひ, 膈ヘルニア, 停滯性大等	

意味のある一語を言えるか	01	2	2	2	2	2	発達おくれ
絵本で知っているものを指させるか	02	5	2	2	2	2	言語発達ちえん
手をひかれて階段をのぼれるか	03	1	—	—	—	—	
よく歩くか	04	5	2	2	1	1	扁平足
鉛筆でなぐり書きができるか	05	—	—	—	—	—	
普通の声で呼ぶとふりむくか	06	—	—	—	—	—	
目つき、目の動きで心配あるか	07	4	2	2	2	2	斜視疑
食前後の手ふきをしているか	08	6	—	—	—	—	
哺乳びんはやめたか	09	67	67	67	—	—	う歯
スプーンをもって自分でたべようとするか	10	2	2	2	—	—	
食事は大人と同じものか	11	1	1	1	—	—	
おやつ時間をきめているか	12	58	6	6	—	—	
歯みがきをしているか	13	54	—	—	—	—	う歯
困ったくせや行動で心配あるか	14	35	13	13	1	1	生活習慣の問題
排泄訓練をしているか	15	41	10	10	2	2	おむつかぶれ、おむつをしている
玩具のうばあいをしたことがあるか	16	4	—	—	—	—	
相手になると喜ぶか	17	1	—	—	—	—	
病気にかかりやすいか	18	14	4	4	3	3	かぜ、ヘントー炎
ひきつけをおこしたことがあるか	19	2	2	2	1	1	ふんぬけいれん
TVや電話の音に興味を示すか	20	—	—	—	—	—	
その他の心配事	21	4	2	2	1	1	言語発達ちえん
全くチェックなし		25	10	10	8	8	湿疹、かぜ、中耳炎、下痢、生活習慣、反対咬合
該当無チェックなし			28	43	43	43	破行、湿疹、かぜ、アトピー性皮膚炎、生活習慣、小柄、等

図1 脳性まひ児の肢体不自由児施設の初診年令



↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究の概要

乳幼児の健康管理を包括的に行なってゆくために、保健所がどんな役割を果たすことがのぞましいか、新しい行政需要をふまえながら、その機能を検討したいと考えた。本年は研究の第一段階として次の4つの点について調査を行った。来年度以降更に調査を深めながら検討をすすめたい。